



8月ほけんたより



社会福祉法人寿康会
認定未来こども園
看護師 浅倉和子

今年もいよいよ夏本番となり

☆◎ 本格的な暑さを感じるシーズン到来です。

今年の夏も昨年に引き続き各地で体温越えの暑さが「言え」記録されています。やはり心配は熱中症です。園でも特に注意してのびが湯く前に水分補給する様にしにり屋外保育セフル時間に注意し熱中症予防に努めて参ります。車中に置きざりにされ命を落としてしまう幼児のニュースが毎年のように報道されます。車中だけでなく屋内外を問わず運動中の子どもにも注意は必要です。

○予防策として ①炎天下の屋外で長時間過ごさない。



動物園・遊園地・公園の砂場・プラザ・その他サカヤ野球等、

②通気性の悪い服を着せない。

又、外出時には帽子をかぶる。

③ほんの数分でも車内に置きざりにしない。

すぐ戻るつもりでも絶対、置きざりにしてはいけません。

④水分補給をこまめにする。

のどの渴きを感じた時には脱水症の始まりです。

水分を欲しがらなくてもこまめに飲ませましょう。発汗多量の時は幼児用イオン水や経口補水液が適しています。(ジュースや炭酸飲料は不適切です。糖分が多いので水分補給にはなりません。)



熱中症 SOSのサイン

! ■ 直射日光の当たる場所や気温の高い所で遊んでいて急にぐったりして元気がなくなると。

! ■ 身体や脇の下を触ると熱い!と感じる。

! ■ 唇がカサカサして顔の皮膚に潤いがなく乾いた感じ。

! ■ 顔色が悪い。生あくびをする。

! ■ おしっこが5~6時間出ていない。

! ■ 吐き気がある。又吐く。



!! 以上の様な症状が1つでもあったら!!

1. 冷房の効いに室内や木陰等、風通しの良い涼しい場所に寝かせる。

2. 頭を低く足を高くして衣服をゆるめる又は脱がせる。

3. 頭や身体を冷やす。冷水で濡らしたタオルやタオルを包んに保冷剤等で、頭、額、首、脇の下、両太腿のつけ根等を急いで冷やす。

4. 水分、塩分を十分に補給する。自分で飲める場合は幼児用イオン水や経口補水液を欲しがらなければ飲ませます。嘔吐している場合には様子を見ながら少しずつ与えます。

5. 意識が変に、おかしいと感じたら一刻も早く救急車を呼んで下さい!

⇒夏に多くみられる感染症←

△ 因頭結膜炎

- 急な高熱、のどの痛み、たむけ頭痛、目やに、充血、首のリンパ節の腫れ
- 注意点：出席停止です。
登園開始には登園許可証の提出が必要です。

△ とびひ

- 虫さされや、あせも、すり傷などから菌が入り水疱ができ、かゆみや熱、それを掻きこわす事でとびひとなったり増えたりする。
- 注意点：ジクジクしている所はかきや包帯等でおおう事が出来れば登園できますが、プールは禁止

△ ヘルパンギーナ

- 突然の高熱、のどの痛み、食欲低下、乳幼児ではよだれが増える。
- 上あご等に小さい水疱
- 注意点：熱が下がり痛みがなくなく飲食がしかりできる様になるまでお休み（ましよう）。

△ 流行性角結膜炎（はせり目）

- 結膜の充血、目やに、かゆみ、まぶたの腫れ、白目や結膜の充血が著しい。
- 注意点：出席停止です。
登園開始には登園許可証の提出が必要です。

△ 手足口病

- 口の中、手、足、足の裏、肘、膝のまわり、おしり等に細かい発疹、口の中が痛み、水分や食事が摂りにくくなる。
- 注意点：脳炎等を伴い重症化する事もあり、感染力の強い疾患です。
のどの痛みで、飲食が出来ない事もあり
症状が治まるまで登園は控えた方が
良い（ましよう）。